

差別の歴史に 真向かう

映画 ワタシたちハニンゲンダ!

2021年3月、スリランカ人女性ウィシュマ・サンダマリさん(33)が名古屋入館で死亡した。戦後、日本政府は、在日外国人の9割を占めていた韓国・朝鮮人の管理を主目的とする外国人登録法などを制定した。そして後年、他国からの在留者が増えると、全ての外国人に対する法的・制度的な出入国管理政策を強化してきた。本作品では、全ての在日外国人に対する差別政策の全貌を浮き彫りにする。



コウチャニュー
高賛侑(監督)

朝鮮大学校卒。月刊誌『ミレ(未来)』編集長を経てノンフィクション作家。ライブ映像ワーク代表。自由ジャーナリストクラブ理事。2019年、朝鮮学校の歴史と現状を描いたドキュメンタリー映画「アイたちの学校」を制作し国内外で反響を呼ぶ。キネマ旬報ベストテン(文化映画)選出。日本映画復興奨励賞受賞。



安田浩一 プロフィール

1964年静岡県生まれ。「週刊宝石」「サンデー毎日」記者を経て2001年よりフリーに。事件、労働問題を中心に取材・執筆活動続ける。'12年『ネットと愛国 在特会の「闇」を追いかけて』で第34回講談社ノンフィクション賞を受賞。'15年「ルポ 外国人『隷属』労働者」で第46回大宅壮一ノンフィクション賞(雑誌部門)を受賞。その他の著書に『右翼の戦後史』(講談社現代新書)、『ヘイトスピーチ』(文春新書)、『団地と移民』(角川新書)、『ルポ 差別と貧困の外国人労働者』(光文社未来ライブラリー)、『なぜ市民は“座り込む”のか 基地の島・沖縄の実像、戦争の記憶』(朝日新聞出版)、近刊に『地震と虐殺 1923-2024』(中央公論新社)など。

7月17日(水) 開場:17:30 / 開演:18:30 / 終演:21:30

四谷区民ホール

一般:1500円(前売り)、1700円(当日) /
30歳未満:1000円 / 中学生以下:無料

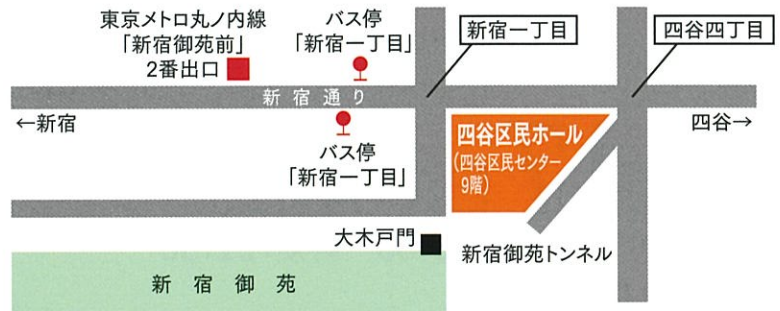
(全席自由) 要予約

旧チラシをお持ちの方へ

会場が新宿区四谷区民ホールに変更となり、開催時間が1回だけ(17時30分開場、21時30分終演)になりましたので、十分お気をつけ下さい。



◀こちらからも予約ができます



東京メトロ丸ノ内線 新宿御苑前駅 2番出口より徒歩5分

東京メトロ丸ノ内線、副都心線、都営新宿線 新宿3丁目駅 C4出口より徒歩10分

2024年高麗博物館企画展

2024年7月4日(木)~2025年1月26日(日)

「強制連行」「強制労働」の否定に抗う

~各地の追悼・継承の場をたずねて~



群馬の森追悼碑撤去に見られるように歴史否定の動きがありますが、強制連行を伝える碑や説明版は数多くあり、犠牲者の追悼、歴史の継承を行っている人々も各地にいます。今回の企画展では強制労働についての講演会の他に、フィールドワークや追悼式を開催している方々をお呼びし、お話を伺うライブトークも予定しています。

市民がつくる日本・コリア交流の歴史博物館



高麗博物館

고려박물관 KOREA MUSEUM

東京都新宿区大久保1-12-1 第2韓国広場ビル7階

TEL:03-5272-3510

E-mail: kh@kouraihakubutsukan.org

URL: https://kouraihakubutsukan.org/